

第 9 次千葉県廃棄物処理計画策定のための廃棄物処理量等 将来予測結果について

1 目的

第 9 次千葉県廃棄物処理計画（平成 28 年度～平成 32 年度）策定に必要な基礎資料を得ることを目的に、平成 26 年度に一般廃棄物及び産業廃棄物の発生・排出・再生利用・処理等の実態把握と、将来予測等を実施しました。

なお、この将来予測結果を基に、次期計画策定に向けた課題・対策等を検討し、平成 32 年度における目標数値を設定します。

2 廃棄物等の将来予測手法について

一般廃棄物の将来予測は、原単位（一人 1 日あたりの排出量）が、現状と同様に推移するものとして、過去 5 年分（平成 19～24 年度）の推移からトレンド法により将来の原単位を求め、これに将来推計人口を乗じて算出しています。

産業廃棄物の将来予測は、各業種の活動量の推移等より活動量の予測を行い、実態調査で得られた平成 25 年度の原単位を乗じることで、発生・排出量の予測を行っています。

3 将来予測結果について

（1）一般廃棄物の処理実績と将来予測

区 分	H 2 4（実績）	H 3 2（将来予測）
排出量（万トン／年）	2 1 9	2 1 2
原単位（g／人・日）	9 7 6	9 4 3
再生利用量（万トン／年）	5 1	4 9
再生利用率（％）	2 3	2 3
最終処分量（万トン／年）	1 6	1 5

（2）産業廃棄物の処理実績と将来予測

区 分	H 2 5（実績）	H 3 2（将来予測）
排出量（万トン／年）	2, 1 1 7	2, 3 3 3
再生利用量（万トン／年）	1, 1 8 5	1, 3 3 5
再生利用率（％）	5 6	5 7
最終処分量（万トン／年）	3 1 3	3 6 3

(3) 一般廃棄物（ごみ）の将来予測

一般廃棄物（ごみ）の排出量は、引き続き減少傾向で推移し、平成 32 年度は 2,118 千トン（平成 24 年度比で 3.3%減）になると予測しています。

処理人口は、平成 29 年度までは増加を続けますが、その後、減少に転じ、平成 32 年度処理人口は 6,153 千人となり、一人 1 日あたりの排出量は 943g/人・日としています。

一般廃棄物は排出量の減少に伴い、各処理量も減少し、平成 32 年度に、資源化量は 490 千トン、減量化量は 1,199 千トン、最終処分量は 154 千トンになると予測されました。

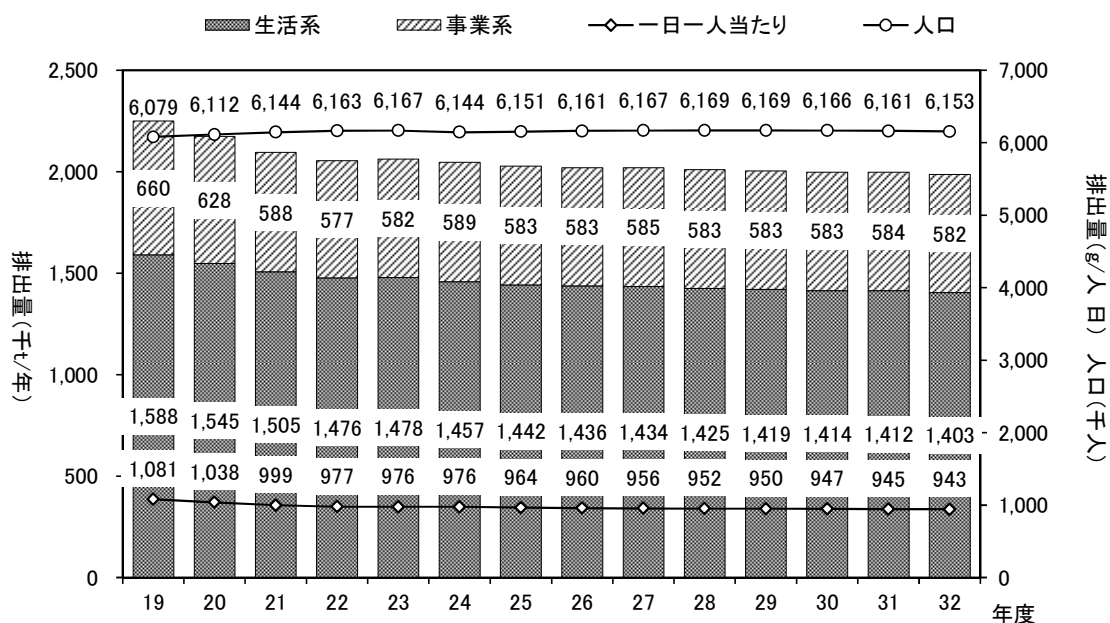


図 1 一般廃棄物の発生量将来予測

年度	人口 (千人)	排出量 (千トン/年)		原単位 (g/人・日)	自家 処理量 (千トン/年)	集団 回収量 (千トン/年)		
		生活系 (千トン/年)	事業系 (千トン/年)					
現況	19	6,079	2,405	1,588	660	1,081	3	154
	20	6,112	2,315	1,545	628	1,038	2	139
	21	6,144	2,240	1,505	588	999	1	146
	22	6,163	2,198	1,476	577	977	1	145
	23	6,167	2,203	1,478	582	976	1	142
	24	6,144	2,190	1,457	589	976	0	143
予測値	25	6,151	2,165	1,442	583	964	0	139
	26	6,161	2,158	1,436	583	960	0	138
	27	6,167	2,157	1,434	585	956	0	138
	28	6,169	2,145	1,425	583	952	0	136
	29	6,169	2,138	1,419	583	950	0	136
	30	6,166	2,132	1,414	583	947	0	135
	31	6,161	2,131	1,412	584	945	0	134
	32	6,153	2,118	1,403	582	943	0	133

表 1 一般廃棄物の将来予測条件等

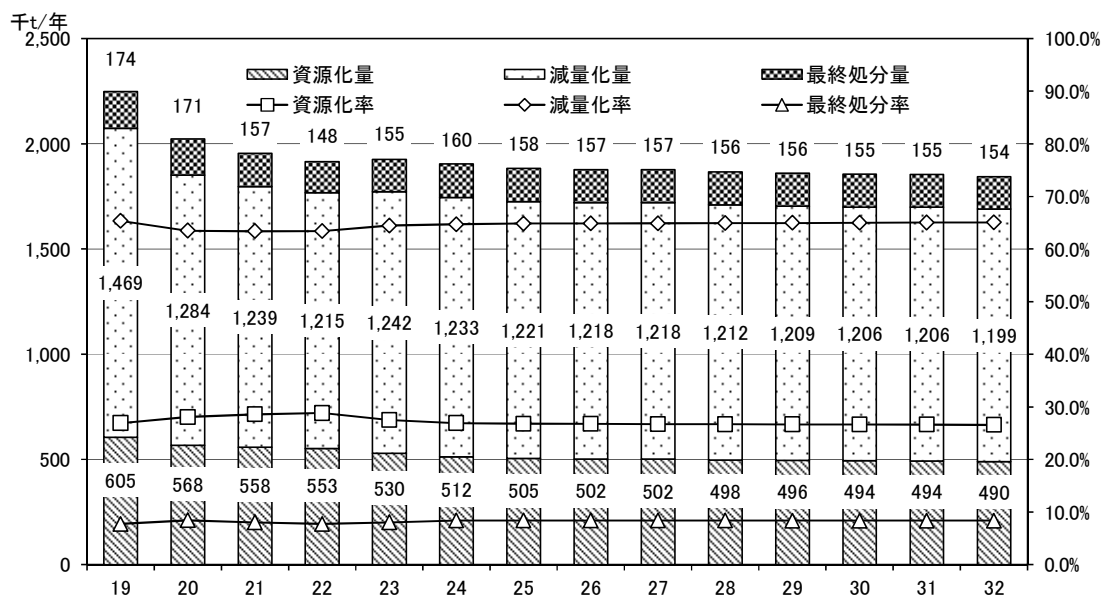


図2 一般廃棄物の処理状況将来予測

(単位：千トン/年)

年度	排出量	計画処理量	資源化量				最終処分量				減量化量	
			直接資源化量	処理後資源化量	集団回収量		直接最終処分量	焼却灰	焼却施設以外の中間処理			
現況	19	2,405	2,248	162	289	154	605	14	135	25	174	1,469
	20	2,315	2,023	151	278	139	568	14	133	24	171	1,284
	21	2,240	1,954	139	273	146	558	6	128	23	157	1,239
	22	2,198	1,916	139	269	145	553	4	124	20	148	1,215
	23	2,205	1,927	135	252	142	530	5	129	21	155	1,242
	24	2,188	1,905	136	233	143	512	5	138	17	160	1,233
	予測値	25	2,165	1,884	135	231	139	505	5	136	17	158
26		2,158	1,878	134	230	138	502	5	136	17	157	1,218
27		2,157	1,877	134	230	138	502	5	136	17	157	1,218
28		2,145	1,866	133	229	136	498	5	135	17	156	1,212
29		2,138	1,861	133	228	136	496	5	134	17	156	1,209
30		2,132	1,855	132	227	135	494	5	134	17	155	1,206
31		2,131	1,855	132	227	134	494	5	134	17	155	1,206
32		2,118	1,844	131	226	133	490	4	133	17	154	1,199

表2 一般廃棄物の処理状況将来予測

(4) 産業廃棄物の将来予測

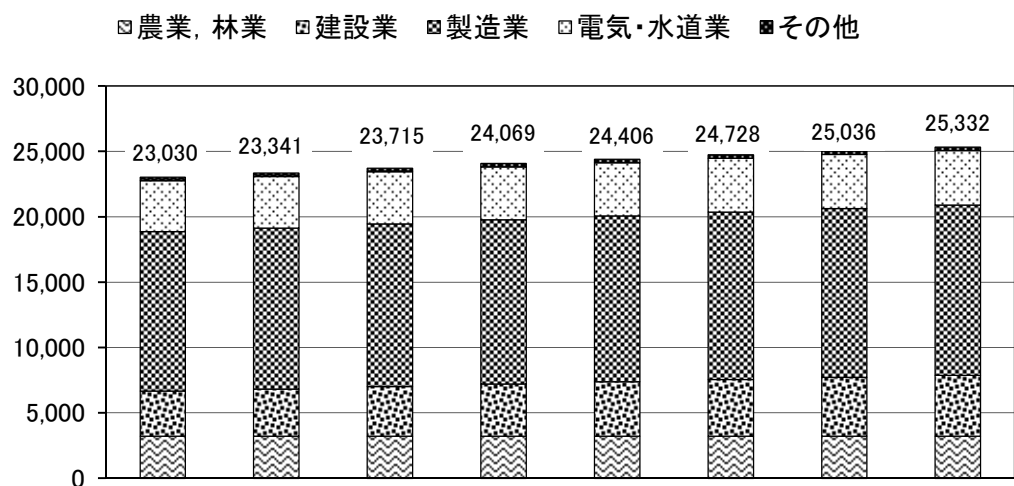
ア 産業廃棄物の発生量

産業廃棄物の発生量は、平成 25 年度の発生量 23,030 千トンに対し、増加傾向で推移して平成 32 年度には 25,332 千トン(平成 25 年度発生量に対して 10%増)になると予測されました。

業種別でみると、最も増加率が高いのが建設業で 34.6%増(平成 25 年度比)、次いで電気・水道業が 7.0%増(同)、製造業が 6.8%増(同)となっています。

産業廃棄物の種類別でみると、最も増加率が高いのががれき類で 31.9%増(同)次いで汚泥が 9.0%増(同)、金属くず、鉱さいが 7.6%増(同)、ばいじんが 7.3%増(同)等となっています。

地域別にみると、最も増加率が高いのが東葛飾地域で 21.0%増(同)次いで、葛南地域が 14.3%増(同)、印旛地域が 13.1%増(同)、山武・長生・夷隅地域が 12.1%増(同)、千葉・市原地域が 9.6%増(同)となりました。



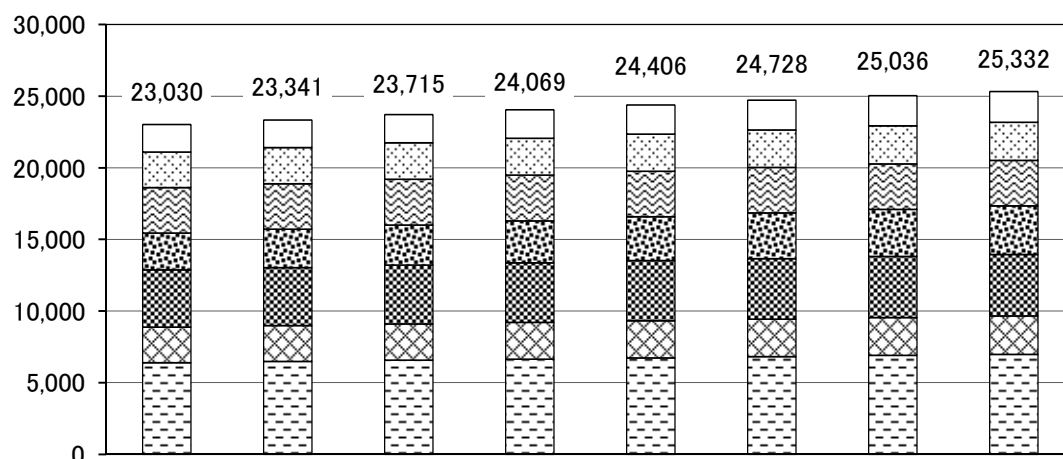
(単位：千トン/年)

業種	年度							
	H25 発生量	H26 発生量	H27 発生量	H28 発生量	H29 発生量	H30 発生量	H31 発生量	H32 発生量
合計	23,030	23,341	23,715	24,069	24,406	24,728	25,036	25,332 (10.0%)
農業, 林業	3,222	3,222	3,222	3,222	3,222	3,222	3,222	3,222 (0.0%)
建設業	3,460	3,593	3,792	3,983	4,165	4,338	4,503	4,658 (34.6%)
製造業	12,173	12,309	12,442	12,566	12,682	12,794	12,901	13,005 (6.8%)
電気・水道業	3,907	3,950	3,992	4,032	4,070	4,108	4,144	4,179 (7.0%)
その他	267	267	267	267	267	267	267	267 (0.0%)

※ () 内は平成 25 年度発生量に対する増加率を示しています。

図 3 業種別の発生量将来予測

□汚泥 □金属くず □鉱さい □がれき類 □動物のふん尿 □ばいじん □その他

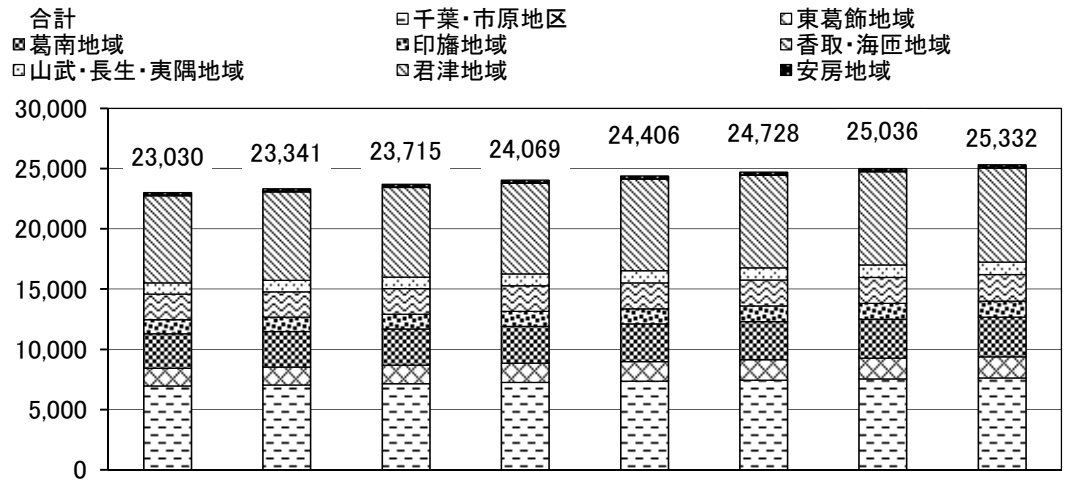


(単位：千トン/年)

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
業種	発生量	発生量	発生量	発生量	発生量	発生量	発生量	発生量
合計	23,030	23,341	23,715	24,069	24,406	24,728	25,036	25,332 (10.0%)
汚泥	6,417	6,490	6,576	6,661	6,746	6,830	6,914	6,997 (9.0%)
金属くず	2,476	2,509	2,541	2,570	2,596	2,621	2,643	2,664 (7.6%)
鉱さい	3,991	4,050	4,103	4,149	4,191	4,229	4,264	4,296 (7.6%)
がれき類	2,574	2,665	2,802	2,933	3,058	3,177	3,290	3,396 (31.9%)
動物のふん尿	3,183	3,183	3,183	3,183	3,183	3,183	3,183	3,183 (0.0%)
ばいじん	2,481	2,516	2,547	2,575	2,599	2,622	2,642	2,661 (7.3%)
その他	1,908	1,927	1,963	1,998	2,033	2,067	2,101	2,134 (11.8%)

※ () 内は平成 25 年度発生量に対する増加率を示しています。

図 4 種類別の発生量将来予測



(単位：千トン/年)

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
地域	発生量	発生量	発生量	発生量	発生量	発生量	発生量	発生量
合計	23,030	23,341	23,715	24,069	24,406	24,728	25,036	25,332 (10.0%)
千葉・市原地区	6,979	7,070	7,179	7,282	7,380	7,473	7,561	7,647 (9.6%)
東葛飾地域	1,460	1,495	1,542	1,588	1,634	1,679	1,723	1,766 (21.0%)
葛南地域	2,879	2,926	2,990	3,054	3,115	3,175	3,233	3,289 (4.2%)
印旛地域	1,181	1,198	1,223	1,247	1,270	1,293	1,314	1,335 (3.0%)
香取・海匝地域	2,100	2,108	2,121	2,134	2,147	2,159	2,171	2,183 (4.0%)
山武・長生・夷隅地域	932	943	961	979	996	1,013	1,029	1,045 (12.1%)
君津地域	7,240	7,340	7,436	7,522	7,600	7,672	7,738	7,799 (7.7%)
安房地域	260	261	262	263	264	265	266	268 (3.1%)

※ () 内は平成 25 年度発生量に対する増加率を示しています。

図 5 地域別の発生量将来予測

イ 産業廃棄物の排出量

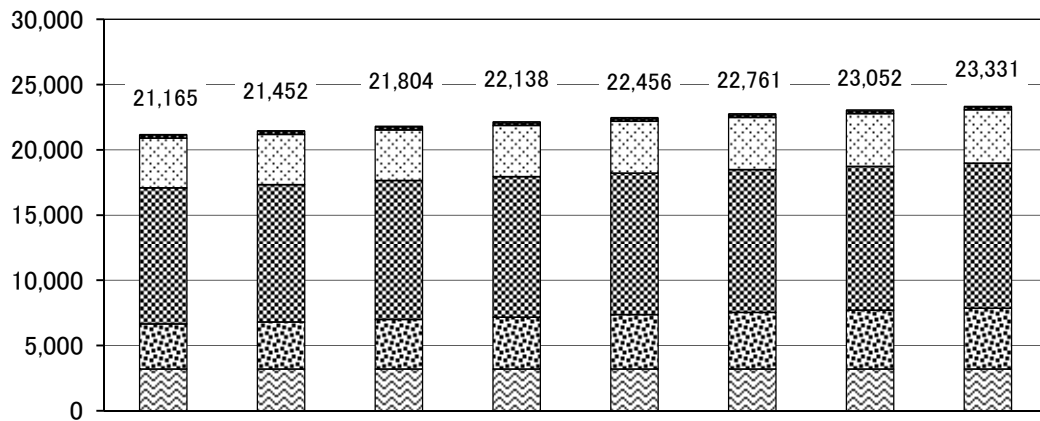
産業廃棄物の排出量は、平成 25 年度の排出量 21,165 千トンに対し、増加傾向で推移して平成 32 年度には 23,331 千トン(平成 25 年度排出量に対して 10%増)になると予測されました。

業種別でみると、最も増加率が高いのが建設業で 34.6%増(平成 25 年度比)、次いで電気・水道業が 7.1%増(同)、製造業が 6.7%増(同)となっています。

産業廃棄物の種類別でみると、最も増加率が高いのががれき類で 31.9%増(同)、次いで汚泥が 9.1%増(同)、金属くずが 8.1%増(同)、鉾さいが 7.7%増、ばいじんが 7.3%増(同)等となっています。

地域別にみると、最も増加率が高いのが東葛飾地域で 21.0%増(同)次いで、葛南地域が 14.2%増(同)、印旛地域が 13.0%増(同)、山武・長生・夷隅地域が 12.1%増(同)、千葉・市原地域が 9.6%増(同)となりました。

▣農業、林業 ▣建設業 ▣製造業 ▣電気・水道業 ▣その他



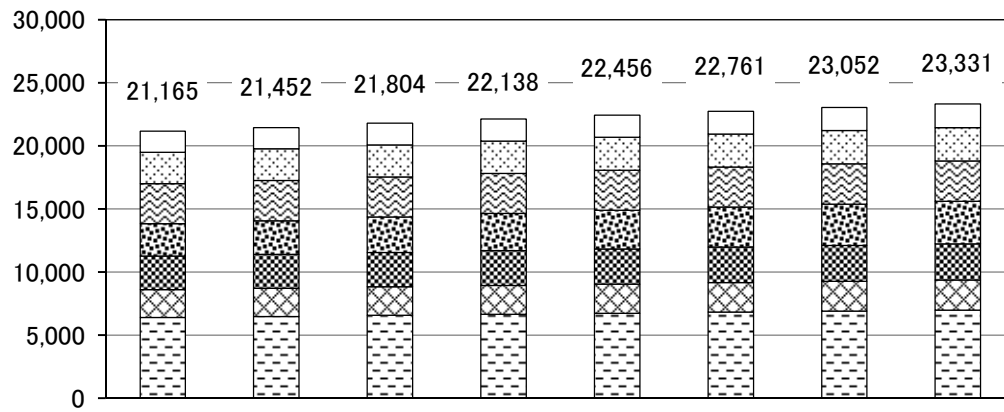
(単位：千トン/年)

業種	年度							
	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
合計	21,165	21,452	21,804	22,138	22,456	22,761	23,052	23,331 (10.2%)
農業、林業	3,222	3,222	3,222	3,222	3,222	3,222	3,222	3,222 (0.0%)
建設業	3,458	3,590	3,789	3,980	4,162	4,335	4,499	4,655 (34.6%)
製造業	10,417	10,529	10,641	10,744	10,842	10,936	11,026	11,115 (6.7%)
電気・水道業	3,809	3,852	3,893	3,933	3,971	4,009	4,045	4,081 (7.1%)
その他	260	260	260	260	260	260	260	260 (0.0%)

※ () 内は平成 25 年度排出量に対する増加率を示しています。

図 6 業種別排出量将来予測

合計 □汚泥 □金属くず □鋳さい □がれき類 □動物のふん尿 □ばいじん □その他

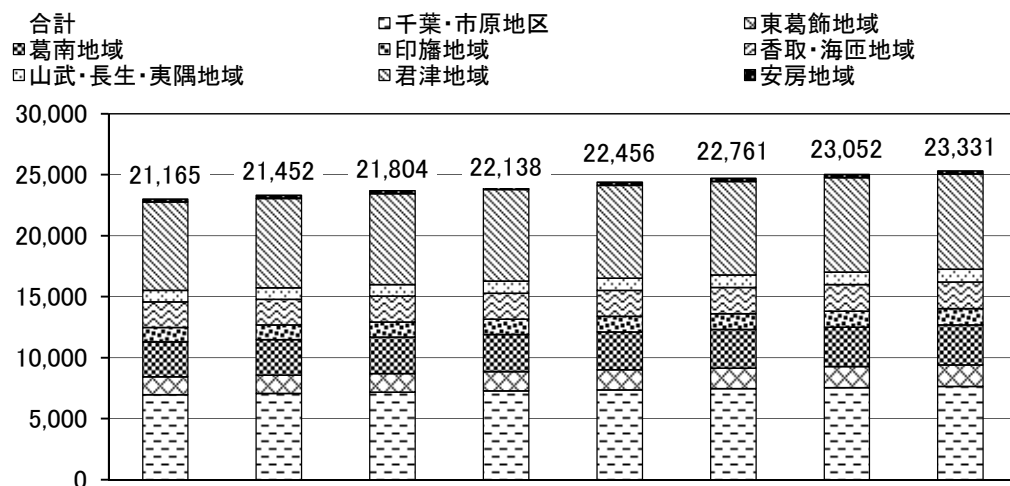


(単位：千トン/年)

業種	年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
	排出量	排出量	排出量	排出量	排出量	排出量	排出量	排出量	排出量
合計		21,165	21,452	21,804	22,138	22,456	22,761	23,052	23,331 (10.2%)
汚泥		6,408	6,481	6,567	6,652	6,737	6,821	6,905	6,988 (9.1%)
金属くず		2,201	2,233	2,264	2,291	2,316	2,338	2,359	2,379 (8.1%)
鋳さい		2,660	2,699	2,734	2,765	2,793	2,819	2,842	2,864 (7.7%)
がれき類		2,574	2,665	2,802	2,933	3,058	3,177	3,290	3,396 (31.9%)
動物のふん尿		3,183	3,183	3,183	3,183	3,183	3,183	3,183	3,183 (0.0%)
ばいじん		2,478	2,514	2,544	2,572	2,596	2,619	2,639	2,658 (7.3%)
その他		1,661	1,678	1,710	1,743	1,774	1,805	1,834	1,863 (12.2%)

※ () 内は平成 25 年度排出量に対する増加率を示しています。

図 7 種類別の排出量将来予測



(単位：千トン/年)

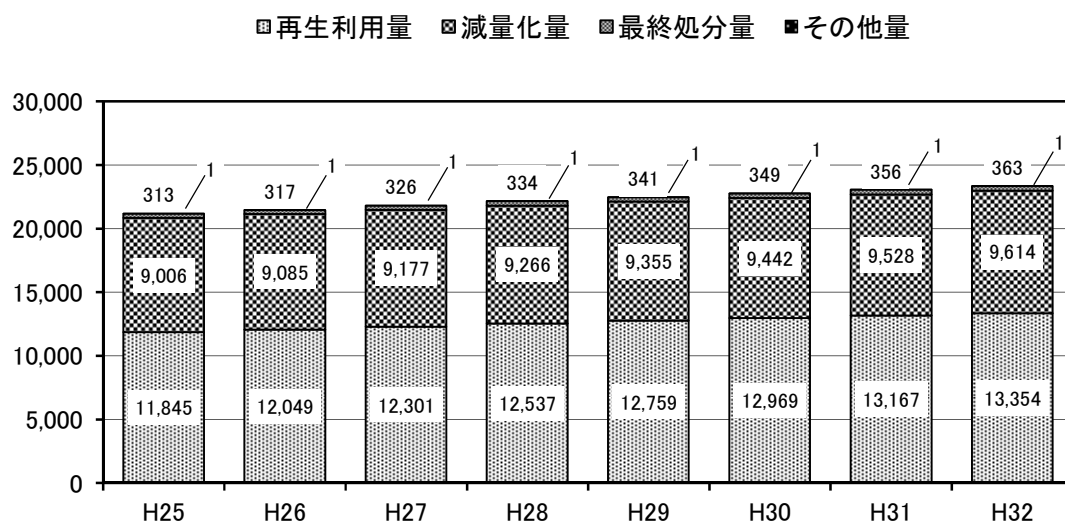
地域	年度							
	H25 排出量	H26 排出量	H27 排出量	H28 排出量	H29 排出量	H30 排出量	H31 排出量	H32 排出量
合計	21,165	21,452	21,804	22,138	22,456	22,761	23,052	23,331 (10.2%)
千葉・市原地区	6,979	7,070	7,179	7,282	7,380	7,473	7,561	7,647 (9.6%)
東葛飾地域	1,460	1,495	1,542	1,588	1,634	1,679	1,723	1,766 (21.0%)
葛南地域	2,879	2,926	2,990	3,054	3,115	3,175	3,233	3,289 (14.2%)
印旛地域	1,181	1,198	1,223	1,247	1,270	1,293	1,314	1,335 (13.0%)
香取・海匝地域	2,100	2,108	2,121	2,134	2,147	2,159	2,171	2,183 (4.0%)
山武・長生・夷隅地域	932	943	961	979	996	1,013	1,029	1,045 (12.1%)
君津地域	7,240	7,340	7,436	7,522	7,600	7,672	7,738	7,799 (7.7%)
安房地域	260	261	262	263	264	265	266	268 (3.1%)

※ () 内は平成 25 年度排出量に対する増加率を示しています。

図 8 地域別の排出量将来予測

産業廃棄物の処理処分状況の将来予測は、現況の処理・処分方法が継続されるものとして、予測を行いました。

将来予測結果は、図9に示すとおりで、産業廃棄物の発生量の増加に伴い各量とも増加して、平成32年度では再生利用量は13,354千トン（平成25年度比で12.7%増）、減量化量は9,614千トン（同6.7%増）、最終処分量は363千トン（同16.0%増）と予測されました。



(単位：千トン)

区 分 \ 年 度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32
発 生 量	23,030	23,341	23,715	24,069	24,406	24,728	25,036	25,332 (10.0%)
有 償 物 量	1,865	1,889	1,911	1,931	1,950	1,967	1,984	2,000 (7.2%)
排 出 量	21,165	21,452	21,804	22,138	22,456	22,761	23,052	23,331 (10.2%)
再 生 利 用 量	11,845	12,049	12,301	12,537	12,759	12,969	13,167	13,354 (12.7%)
減 量 化 量	9,006	9,085	9,177	9,266	9,355	9,442	9,528	9,614 (6.8%)
最 終 処 分 量	313	317	326	334	341	349	356	363 (6.0%)
そ の 他 量	1	1	1	1	1	1	1	1 (0.0%)
資 源 化 量	13,710	13,938	14,212	14,468	14,709	14,936	15,151	15,354 (12.0%)

※その他量は、年度内で処理処分されずに保管されていた量のこと

※ () 内は平成25年度発生量等に対する増加率を示しています。

図9 処理・処分の将来予測